



燕市立 小池中学校

学校データ

【学級数】 8 学級

【生徒数】 176 人

【地域コーディネーターの有無】 有

地域との連携・協働による防災教育を通じて、 未来の創り手となるための資質・能力を育む

1 はじめに

「地域とともにある学校」の具現に向けて、地域と連携・協働した教育活動を進めている。学校運営協議会において、生徒が未来の作り手となるために必要な資質・能力について、目指す生徒の姿で発信し、協議しながら共有化した上で、防災を学校と地域の共通の視点と定めた。地域の現状なども踏まえながら、図1のように学校と地域の連携・協働をデザインして取り組んだ。

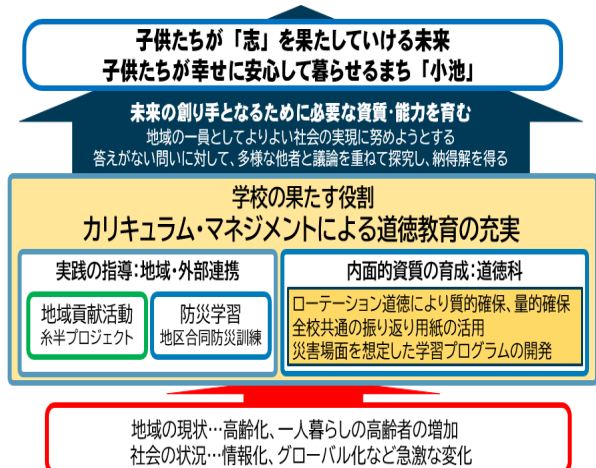


図1 地域との連携・協働におけるデザイン

2 生徒の特徴

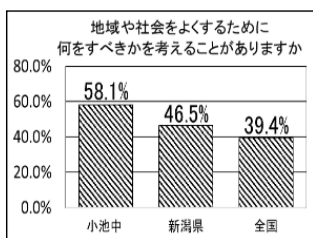


図2 令和元年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙より県と全国との比較

令和元年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙の「地域や社会をよくするために、何をすべ

きかを考えることがありますか」の質問に対する肯定的回答は、図2のとおり、全国 39.4%、県 46.5%に対して、当校は 58.1%であった。当校

[1×2] (母比率不等)		
観測値	36	26
観測値比率	(0.5806)	(0.4194)
母比率	0.4650	0.5350
片側確率	p=0.0448	* (p<.105)
効果量	g=0.1156	
/// Analyzed by js-STAR ///		

図3 直接確率計算 1×2 表母比率不当による分析

と県でデータ分析を行うと、図3のとおり有意差が見られ、当校生徒の社会参画への意識が高いことが分かる。その要因としては、平成30年度より地区合同防災訓練での3年生による地域住民に対するプレゼンテーションなどの活躍がある。防災教育での学習成果を地域に向けて実践・発信できていることが、生徒の社会参画への意識を高めていると考えられる。さらに、平成27年度より継続して生徒会が主体となって糸半プロジェクト(地域貢献活動)に取り組み、地域に積極的に関わっていることもプラスの要因と推察される。

3 生徒に育みたい資質・能力

未来の創り手となるために必要な資質・能力
 ・地域の一員としてよりよい社会の実現に努めようとする。
 ・答えがない問いに対して、多様な他者と議論を重ねて探究し、納得解を得る。

識の高さを更に伸ばしながら、未来の創り手となるために必要な資質・

能力を生徒に育む。そのために、令和2年度より図1のように、これまでの活動を見直し、地域での体験活動を中心とした「実践の指導」と道徳科による「内面的資質の育成」の2本柱に整理し直して取り組んだ。

4 実践の概要

平成28年度より継続している地区独自での防災訓練は、小学校と中学校が教育活動の一環として参加してきており、生徒の防災学習に関する体験活動は充実していた。この体験活動を生かして考えを広げたり、深めたりできるようにするため、令和2年度よりNPO法人ふるさと未来創造堂と連携して、図4のように、3年生で新たに災害場面を想定した道徳科の授業(防災クロスロード、さすけなぶる)と防災教育(避難所運営ゲーム HUG)を導入した。答えのない問いを多様な他者と議論を重ねて探究し、納得解を得る活動を組織して、「人としてどうあるべきか」「自分はどう行動すべきか」を生徒同士で考え、議論する場を設定した。

		地域の一員として よりよい社会の実現に努めようとする		卒業後 中学校 3年生 2年生 1年生
系 半 ブ ロ ク 活 動 エ ク ト	実践の指導 地域・外部連携		内面的資質の育成 道徳科	
	地区合同 防災訓練	防災学習 ・避難所HUG ・防災講話	さすけなぶる 防災クロスロード 電話番 ある日 生まれた命	
	地区合同 防災訓練	防災学習 ・救急法講習 ・防災講話	紙芝居 段ボールベッドへの思い つながる命	
	地区合同 防災訓練	防災学習 ・災害弱者 の避難支援 ・防災講話	僕たちの未来 ひまわり	

図4 実践の指導と内面的資質の育成
※太字が令和2年度新たに追加した内容

5 NPO 法人ふるさと未来創造堂による外部評価

学習を通して、目に見える問題や出来事より、そこにいる人の思いや

背景に想像力を働かせて、何が問題の本質かを考え抜こうとする生徒の姿が見られた。「どんな人でも同じ人だということを頭に置く」と振り返っていた生徒もいた。まさに、地域の一員として、人の命と人権を尊重しながら、公共の精神をもって、よりよい社会の実現に努めようとしていたのだと感じた。

6 成果

生徒はこれまでの地域での体験を基に、より当事者意識をもって取り組むことができた。また、他者と議論する中で、納得解を生み出すためには様々な立場の意見を重ね合わせながら判断する必要があると気付くようになった。これは、振り返りシートの記述からも判断できる。

- ・いろいろな人の意見を聞き、そう考えた理由を知ってからみんなで決めていくことは大切だと思った。
- ・対応のメリットとデメリットを考えたつ、最大限困っている人がいい方向になるようにする。型にはまっているだけではだめ。
- ・人と人とのつながりが大切。物事には見えていない部分もあり、その見えていない部分を考えたり、分かるようにしたりしておきたい。

振り返りシートの記述より

支援について議論する中で、最初は「物資面などを与える」という視点が多かったが、次第に「人が人らしく生きるために本当は何が大切なのか」という視点へと変わり、本質的な支援について考えることができた。さらに、その実現に向けて他者と協働する必要性を次の課題として見出す姿が見られた。この「他者に発信し、課題解決を目指そうとする姿」こそ、学校と地域で目指した、他者と議論してよりよい社会の実現に努めようとする生徒の姿である。